

三田市議会議員(政党無所属)

なかたさとし

武庫小、狭間中、北摂三田高、兵庫県立(旧神戸商科)
大学卒、不動産会社勤務、三田市議会議員3期目

連絡先:nakasato19761103@yahoo.co.jp / 090-8796-9513



【目次】本会議個人質問、その他 なかたの提案！

1-1. **中学校部活動地域移行**⇒中学生の育ちを応援！ステークホルダーの信頼関係構築を急げ⇒新しい文化・スポーツ活動のコミュニティを皆で創る！1-2. **経済支援と施設利用支援、ガイドラインの緩和も**⇒誰もが参加できる仕組み創りを！中学校部活動で実現できなかった新しい競技・活動も応援！1-3. **市民活動との連携**⇒中学生が地域活動・ボランティア活動へ主体的に参加する事による教育的効果(実践的学び)と地域活性化の相互効果を期待！2. **商店・バス・クリニック等の営業終了・縮小が相次ぐ地域経済**⇒買って支える・乗って支える・利用して支える。みんなの消費行動で地域経済を守る！3. **不登校支援**⇒サポートルーム・デジタル教材・オンライン環境の更なる充実、フリースクール利用支援、保護者会との連携⇒子どもの可能性に光を！！4. **システムの標準化**⇒労働力不足を超える為にデジタル化は避けられない。最適なシステム開発・活用で安全性・効率性・行政コスト削減を実現せよ！5. **その他の議論 高齢者の住み替え支援など**

【三期目がスタート！】昨年9月の三田市議会議員選挙において2,878票を頂き、三期目のスタートを切らせて頂く事となりました。皆様とお約束した『明日が楽しみになる三田』を創る為に得票の重みを感じながら益々精進して参ります。さて、課題山積の三田市政ですが、その先頭に立つべき**田村市長に、公用車の不正使用の問題(9月議会)や、『市民の声』である議員の個人質問に答弁しないという態度(12月議会)等が続き、市政や市民に対する誠実な姿勢や覚悟が感じられない状況が続いています。『子どもを核としたまちづくり』の旗を掲げたところには共感できるだけに非常に残念です。そして、こども医療費・給食無償化の実現には前向きに発言するも、毎年5億円以上ともいわれる財源を確保する為の議論には消極的で、説明が不十分であると指摘しなければなりません。3月に予定される予算審査の際には、市民に対する明瞭な説明を求めたいと思います。教育・医療・子育て・経済・介護・交通等、様々な課題に対応すべく、施策間のバランスを保ちながらも、三田の強みをしっかり磨き活かす為に選択と集中の議論を加速して参ります。ぜひ、皆さんのお声を聴かせてください。みんなで三田の話をしましょう！！**

1-1. 中学校部活動の地域移行

～部活動が無くなる！？みんなで

支えてピンチをチャンスに！～



【背景】部活動で異学年の仲間たちと切磋琢磨する中から、社会を生き抜く為に必要な協調性や責任感、夢を描く力、困難を乗り越える力等が養われてきた。⇒中学校部活動の廃止(国が方向性を示すもので三田市はR8年夏迄に段階的に進める。)は社会にとっての大きな痛手。⇒それでも学校が抱える過剰労働、人材不足の現状を解消し、**教員が生徒達としっかりと向き合える環境を守る為には必ず進まなければならない道**であります。

【人材不足と関係構築】一方で、地域社会に人材的なゆとりがあるわけでは無く指導員確保は大変な課題です。そして何より、受け皿となる地域側に、『移行に対する理解が未だ十分に浸透していない』という現状があります。持続的に地域クラブを成り立たせるために、地域の担い手や生徒、保護者との信頼関係構築が大変重要なカギとなります。

【みんなで支えあい活動を守る】『学校』という受け皿に比べれば『地域』はやや不確かで脆弱な受け皿であると言わざるを得ません。地域人材や保護者を巻き込み、『**みんなが支え合って活動を創る**』という意識を醸成することが重要になります。厳しい挑戦ですが、課題を乗り越え**まちぐるみでスポーツや文化の多世代交流を生み出し、地域クラブの充実を『三田の強み』**として育てたいと考えます。



1-2. 地域クラブへの支援策

～みんながスポーツや文化で元気になれるまちをつくる！～

【誰もが参加できる仕組みに！】地域クラブの運営には移動費、保険代、備品費、指導者への謝礼等さまざまな経費が掛かかる。⇒しかし、クラブの収入源となる会費は保護者負担である事を考えると低廉な設定額が望しい。⇒地域クラブは経済的に厳しい運営を余儀なくされる事が予想される。⇒**地域クラブ展開は中学生の成長に多大なる影響を与える社会的事業である事を踏まえ、地域クラブや、経済的理由で参加に支障がある世帯への経済的支援策を検討**するよう求めています。

【練習場所の確保を！】平日の練習は指導者の参加可能な時間帯を考えると夜間練習になる事も想定されますが、中学校には照明設備がありません。↗

(↗続き)屋外競技のクラブが夜間練習を行う為に⇒照明設備のある市公共施設の優先利用や、利用料減免についての検討を求めています。

1-3. 地域・市民活動との連携

～地域活動やボランティア活動との連携で

中学生の実践的学びの場を創出～



【こどもの成長が地域の希望に】学校で行う現行中学校部活動に比べて⇒移行後の地域クラブでは、**活動日数の減少や参加生徒の減少**が懸念。⇒生徒たちにできた、『時間の隙間』を活かす為に地縁団体や市民活動団体と連携し、**地域活動・ボランティア活動への参加の機会を増やす事ができないか？活動への主体的参加体験が中学生の『課題発見・解決能力を育てる実践的な学び』となり、大きな教育的効果が見込める。**⇒高齢化が進む地域や活動団体側にも、中学生や保護者の参加により、若い活力が加わる効果が期待できる。⇒こうみん未来塾や、学生のまちづくり関連の市の既存事業との連携についても同様に相互効果が期待できると考えます。

【なかたの考え】『部活動がなくなる！』という負のインパクトはあまりにも大きい。⇒ピンチをチャンスに変える発想転換を!!科学・森林・農業クラブ、ダンス・料理・パソコンクラブ、まちづくり・ボランティアクラブ等、三田ならではの新しい活動を生み出す機会に。⇒オール三田で中学生の多様な活動を創出する機運を醸成⇒まちの活力に変えていきたい！

2. 地域経済を考えよう

～高齢者の生活の質向上の鍵、

みんなの消費が地域経済を創る！～

【移動に制限のある高齢者の利便性を守る】フラワータウンフローラ88の営業終了(新商業施設へ建替え)や相野地区の商店閉店、各地でのバス減便やクリニック閉所など、住民生活を支えるサービスの営業終了や縮小が続き、特に移動に制限のあるシニアにとっては大きな課題となっています。競争によりサービスが向上し、消費者に恩恵が行き渡るというのが資本主義経済のセオリーですが、今の地域経済にはその仕組みが機能していません。人口減少により**先細るパイの中での過当競争は民間事業者の経営を圧迫し、サービス縮小、値上げ、撤退等の悪循環**を生み出している。⇒結果として地域住民の生活利便性を引き下げる要因となっています。裏面へ

2. 地域経済を考える

～買って支える・乗って支える。みんなの消費で地域の経済を応援～



(表面の続き) 事業者の店舗展開についての経営判断に行政が直接関与する事は出来ませんが、まちづくりのビジョンや課題、市民ニーズを戦略的に行政と民間事業者が共有し連携する事が重要であり、加えて私たち地域住民(消費者)も、消費で地域経済に参加する主体である事を意識しなければなりません。**地元の商店で買って応援! バス・電車に乗って応援! 自分の消費行動が地域経済を支えるという意識を醸成し**地域経済をみんなで盛り上げましょう。

【適切な情報開示】 フローラ88の営業終了(令和7年2月)⇒新商業施設への建替え(竣工までに最短2年)についての正式な情報が中々開示されず、(噂が先行)住民の中には不安が広がりました。事業者に対し、(経営上の事情に配慮の上)適時適切な情報開示を求め、また、**市民ニーズや市の計画・ビジョンを事業者と共有し**、新しい建物の設計やテナント誘致戦略に活かすような連携についての提案を行いました。

【ATMと飲食スペース】 フローラ88はフラワータウン住民の思い出が詰まったニュータウン発展のシンボルであり、営業終了のニュースは地域住民に大きな喪失感をもたらしました。・・・閉鎖による不安の声としてよく聞かれるのは、気軽に利用できる飲食店やフリースペースと、ATM施設が無くなる事についてです。**特に移動に制限のある高齢者にとって、フローラ88は、一商業施設という存在を越え『日常生活に欠かせない憩いの場、交流の場』**としての役割を果たしてきました。

【市施設の有効利用を】 ⇒そこで、一時移転が予定されている三田市直営子育て交流広場の跡地を、例えば飲食店対象のチャレンジショップ(起業・出店を目指す人のチャレンジの場)として、あるいは地域との連携で地域食堂として運用できないかという提案を行なっています。大きな改装を加えずに簡単な食事やティータイムを楽しみながら、住民が憩い、交流できるスペースとして利用できれば、一時的な跡地の活用法として大変有効であると考えます。



3-1. 増加する不登校への対策

～自己肯定感を育み、こどもたちの個性と可能性に光を当てる～

【心理的負担と経済的負担】 不登校児童の保護者は多くの心労を抱えている上に、**子どものケアを理由に仕事を休んだり、辞めざるを得ない状況に追い込まれる**など、経済的にも大きな負担を背負うケースがあります。保護者は『みんなと同じように学校に通ってほしい』と願いますが、あの手この手を尽くしてもそれが叶わない。何とか最適な居場所を見つけたと子どもの可能性を引き出してくれるフリースクールに通うも、少人数体制が前提となるフリースクールの利用料が更なる経済的負担として重くのしかかります。

【フリースクール等の利用支援を】 学校現場・保護者が懸命の努力を尽くしても通学が実現できていない現状を、直視し寄り添わなければなりません。市長が掲げる給食の無償化を実現したとしても不登校児童にその恩恵は届かず、『不登校児童はおいてきぼりだ。』との間違ったメッセージとして受け止められかねません。県内では明石市でも助成制度が始まりました。**『子どもを核としたまちづくり』を確かなものにす為**にも、フリースクール等の利用費助成制度を検討すべきと提案しています。

3-2. サポートルームの充実

～人材確保と、オンライン環境、進化したデジタル教材の利活用を更に充実～

【前進! 別室環境が整備】 提案を続けてきた校内サポートルーム(教室に通いにくい児童の別室教室)の設置が進みました!⇒不登校児童生徒の背景や状態は個々様々。⇒まずは『こころのケア最優先』が前提ですが、中には集団への抵抗感から教室には入れないものの、学習意欲はとても高く、**こころのケアだけではなく、『サポートルームの学習環境』**の充実を求める児童がいます。

【更なる充実を】⇒こころのケアが重要視される上に、『学習指導やテスト、学習評価を受けたい』という声にも応えとなると現場の負担は更に大きくなり機能不全に陥るリスクが生じます。⇒多様な課題・ニーズを持った子どもたちと向き合うために、サポート人員の確保、**デジタル教材の活用(個々の状態にあった最適学習を可能にする為の教材が開発されてきています。)**、オンライン授業環境の整備等、更なるサポートルームの環境整備を求めています。

3-3. 保護者の会、支援団体との連携

～同じ課題、困難を共有する仲間がいるから乗り越えられる～

【背景】 こどもの心の安定には保護者の心の安定が必要です。保護者のメンタルを整え、子どもの課題と向き合うゆとりを回復させなければなりません。⇒共通した課題を抱える保護者同士がセルフヘルプグループ(当事者支えあいの会)の中で互いにつながることで、⇒

【効果】 ①孤独感が和らぎ、②成功・失敗の体験談や子供のケアに必要な情報を交換する等、**(困難を乗り越えた先輩保護者の体験談などに勇気づけられる。)** 学びあいの機会が創出され、③グループ共通の課題や傾向と対策を『見える化』させる等の効果をもたらします。保護者会や支援グループとつながる事で行政や学校現場としても効果的な対応が可能となります。不登校児童保護者の会や支援団体のプラットフォーム整備と、三田市・学校との連携について議論を深めています。



4. システム標準化の効果

【労働力不足を乗り越える為の切り札】 今後、ますます日本の労働力不足が深刻になる中、**社会全体のサービス水準を維持する為にデジタル化はどうしても避けられない道**であります。三田市もこれまでにデジタル化の根幹を支えるためのシステムの導入・保守・改修などに多額の予算を投入してきましたが、社会全体の中で各々が『異なった形式や仕様』のままにデジタル化やシステム導入を進めても**多大な投資コストに見合った果実**を得る事はできません。システムの仕様が異なる事が原因で改修を特定のベンダー(開発事業者)に依存せざるを得ず、競争性が働かないという『ベンダーロックイン問題』がこれまで指摘をされてきました。

【コスト削減と効率化】 システムの標準化を進めることで期待されるコスト面・効率性・セキュリティ面における効果についての議論を深めています。デジタル化の大きな流れに煽られて、効果の薄い無駄な開発投資があってはなりません。独立性が担保された外部専門家(CIO 補佐官)に適切なアドバイスを求め、**『効率性向上とコスト削減効果の見込みについて』最適投資判断**を行なった上でシステム・設備の導入を進めなければなりません。



5. その他、決算審査等での取り組み

□ふるさと納税 令和5年度決算ふるさと納税収入伸び悩みで次年度に期待⇒収入を増やす為の努力は必要だが、持続的な安定財源としてふるさと納税収入に依存するのはどうか? **『市外へ三田の特産品をアピールしたり、三田市で育った人のふるさと応援を呼び込む』**といった効果を狙うのが**本来の目的**。市長が『新たな財源として期待する』と言う肝いり事業の行方を注視。⇒また、ふるさと納税の仕組みを使って**市内で活躍するNPO法人や市民団体への寄付を促進**する仕組みの提案を行なっています。

□公約達成の為の財源確保策について 期待が高まることも医療費・中学校給食無償化に必要な財源(毎年約5億円以上)の確保策について問う。⇒ふるさと納税返礼品拡充や公民連携促進(直接的安定財源確保策としては?)、行革等進め健全財政目指すとするが、財源論としては具体性に欠け不明瞭な説明。⇒3月上旬の予算に注目が集まります。

□起業支援 実践創業塾やコアラボ事業等、起業支援関連事業について問う。⇒飲食・サービス系起業家が多く、テクノロジー・IT分野系の規模が小さくコミュニティが活性化しないと聞く。より大きなスケールを持つ神戸市の取り組み等との連携や大学との連携について議論。

□こども家庭政策関連 こども・家庭の課題が複雑化・複合化・潜在化し、なかなか困難から抜け出せない家庭が増加。相談・訪問・検診・各種支援事業間の連携と継続フォローの重要性について議論。

□高齢者住替え相談支援 慣れ親しんだコミュニティで暮らす良さはあるが、高齢で移動が不自由になったり、一人になり大きな家の管理が難しくなった場合等に、サービス付き高齢者住宅等へ安心して住み替えを検討できるような相談支援事業について議論。



□ひとり親のリスキリング支援 看護師や介護士等への職業訓練、キャリアアップ支援の実績は示されるが、⇒最近の傾向としてはデジタル人材不足からデジタル分野へのリスキリングが奨励されている。IT業界は、フレックスタイムやリモートワーク等、柔軟な働き方が進んでいて、ひとり親世帯には相性が良い。⇒不慣れな業界に飛び込むには勇気がいるが、入り口段階で今後の展望や働き方、キャリア形成のイメージが湧けば選択肢・可能性が大きく広がる。⇒ハローワークとの協力によるキャリア相談体制の充実を提案。

